

# 星林高等学校

実施日時	令和元年11月5日(火)
参加者	生徒833名、教職員72名、地域住民等10名 計915名
実施内容	一次救命処置(心肺蘇生とAED) / アルファ米炊き出し・配膳訓練避難訓練 / パーティション組立・撤収訓練、非常用スリッパ作成 等

## ねらい

災害発生時、生徒の安全を確保し迅速な避難行動がとれるようにする。参加者を主体的に行動させることで、防災意識を高め「自助」「共助」「公助」の精神を養う。「南海トラフの巨大地震」と「東海・東南海・南海3連動地震」による津波浸水・地震被害想定に対応した避難行動を取り入れる。以上の目的で、避難訓練・防災講演会・防災スクールを実施した。

## 主なプログラム

### 1. 一次救命処置(心肺蘇生とAED)講習

【星武館】人形を使った人工呼吸、胸骨圧迫の実技講習及びAEDの使用を学ぶ

### 2. アルファ米炊き出し・配膳訓練

【生徒ホール】→【調理室】「わかめご飯100食」「田舎ご飯100食」「ドライカレー50食」「チキンライス50食」4種類、約300食分の炊き出しと配膳の訓練

### 3. パーティション組立・撤収訓練、非常用スリッパ作成

【体育館】段ボールとクリップを使いパーティション組立と撤収の訓練。新聞紙を使用したスリッパの作成

## 概要

日時 令和元年11月5日(火)  
場所 和歌山県立星林高等学校  
参加者 生徒1年生280名 2年生279名  
3年生274名 計833名

教員72名 PTA・地元住民・自治会の方々  
(3限:15分) 避難訓練(全学年)  
教室で待機、避難訓練及び体育館へ移動  
(3限:60分) 防災講演会(全学年)  
和歌山県総務部危機管理局防災企画課  
稲住孝富氏による講演  
演題「大切な命を守るための適切な避難行動とは何か」  
(4限:50分) 防災スクール〈防災実技講習〉(1年生のみ)

### ①一次救命処置(心肺蘇生とAED)講習

対象:生徒70名及び教員3名

### ②アルファ米炊き出し・配膳訓練

対象:生徒56名及び教員3名

### ③パーティション組立・撤収訓練

対象:生徒154名及び教員11名

## 参加者感想文

私は今まで「アルファ米」というものを聞いたことがなかったので、はじめは「おかゆ」の様なものになるのかと思っていましたが、普通の「ご飯」と変わらず美味しく出来上がりました。なによりお湯だけで作れるということに驚きました。非常食なので軽いし持ち運びも簡単で、災害時には今回の経験で学んだことを生かし役立てたいと思いました。

## 成果と課題

### 【成果】

和歌山市防災マップ（高松・雑賀・雑賀崎地区）を各教室に掲示することで、災害時の状況を具体的に把握することができた。特に津波の到達状況を把握することで、校内での垂直避難だけでなく、通学時・帰宅時など校外での避難経路や避難場所を確認することができた。津波被害、道路の破損、電信柱や家屋の倒壊など、実際の状況を的確に捉え、自主的に判断し行動できることが求められる。今回の防災スクールでは、情報伝達訓練・シェイクアウト訓練等をおこない、避難場所は本校体育館とした。和歌山県総務部危機管理局防災企画課の稲住孝富氏を招き「大切な命を守るための適切な避難行動とは何か」について講演いただいた。世界津波の日の意義、地震のメカニズムや和歌山県の地震、和歌山県で想定される津波、和歌山県を襲った風水害からの教訓、災害から身を守り逃げ切るための行動、避難に必要な情報の活用方法などを分かりやすくお話いただき、生徒たちは理解し身近に感じる事ができた。防災実技講習では一次救命処置（心肺蘇生法とAED）では、各自が救援者として活動ができるように、和歌山市消防局から隊員3名を招き、人形を使った人工呼吸・胸骨圧迫の実技講習に加え、AEDの使用方法を学習した。救急車が到着するまでの間、バイスタンダーとして何をすべきかを知ることで、いざという時に役立てたい。アルファ米炊き出し・配膳訓練では、生徒ホールと調理室のお湯を使ってスムーズにおこなうことができたが、実際に災害に遭った時、いかに大量の水・火器を確保するかについても考えておく必要がある。パーティション組立・撤収訓練及び新聞紙によるスリッパ作成では、1グループ当たり10～15人で実施し

た。組み立て方は、最も簡単な正方形を指示した結果、生徒たちも戸惑うことなく、スムーズに組み立てることができた。

### 【課題】

- ・今年度は11月5日（火）の実施であったが、年間行事計画を作成するなかで、より適した実施日を検討する必要がある。
- ・近隣には小学校・中学校・高校があり、地域住民の方々も含め、災害が起こった場合かなりの混雑が予想される。共同訓練の実施などを検討する必要がある。
- ・実際の災害時には混乱したなかで活動することになり、いかに緊張感を持って訓練できるかが課題である。
- ・訓練は、授業中のホームルーム教室を想定していることが多い。体育館・グラウンド・特別教室、休み時間中なども想定し、教員がその場面にいない時でも、生徒1人1人が的確な判断ができるような訓練も必要である。



防災講演会



一次救命処置（心肺蘇生とAED）講習